

第3回 新向日市環境基本計画策定委員会 議事録

日時：平成23年11月9日 13:30～16:20

場所：向日市民会館 第5会議室

<出席者>

●委員

三輪委員、加賀委員、岡本委員、上羽委員、川島委員、木原委員、玉井委員、松井委員、佐野委員、戸田委員、金内委員、中村委員、片岡委員、池田委員、酒井委員

(名簿順)

●事務局

環境政策課：中村市民生活部次長兼課長、長谷川課長補佐、小島

コンサルタント：株式会社サンワコン 森、駒野、宅間、丹羽

<次第>

・開会

1. 委員長あいさつ

2. 審議事項

1) アンケート結果報告

2) 計画の課題について

3) 計画の骨子について

3. その他

・閉会

〈 ・開会 ～ 1. 委員長あいさつ 〉

事務局進行のもと、執り行われた

〈 2. 審議事項 〉

【 1) ～ 2) について 】

(事務局より資料の説明)

主な意見

- 向日市の事業所で、現在排出ガスや屋外焼却をやっているところは見当たらない。屋外の悪臭発生についても、薬品会社ではあるのかもしれないが、見当たらないと思う。企業の対応は進んでいると思う。
- 自動車排気ガスについて、東向日からJR向日町駅間の道で工事を行っており、今後車の台数が増えて環境に影響が出るのではないか。
- 公害の問題について、空気や水の流れ、ダイオキシンを観測するには、実際の数値が反映されないような場所である。体育館や公民館でなく、事業所の近くの排水で計測する方が適切である。
- 向日市内全域が公共下水道区域になっており、向日市は事業所の数が少なく、汚れた排水を出すところは少ない。河川の水質についてもかなり良くなっている。
- 水環境で、雨水についてはどこにも出てこない。阪急より東側は排水がうまくいっているが、西側、特に物集女街道がネックになって水が溢れるところが随所に見られる。排水に雨水を含めるのか、雨量の基準を引き上げるか、南側の地域も含めた雨水対策をもっと頂けると有り難い。
- 放射能について盛り込んで頂けて嬉しく思う。向日市としても安心・安全というところを調査して定期的に発表してもらえると良い。市議会の報告文書では、検査したものを出しているから安心だと発表されていたが、そういった広報誌は見る人見ない人がいるため、環境計画の中でも、市の安全を守る姿勢を盛り込むと充実したものになると思う。
- 京都府の伏見での測定については京都府保健環境研究所で測定しており、直線距離で約4km程しか離れていないため支障はない。何かあった時には測定出来る体制は考えており、異常値が出た場合には向日市でも測定することは考えている。
- 『ノーマイカーデー』に関してもどこがするのか、どう行うのか、というところまで突っ込んだ話が出来なければこの施策の追加目標が出来ない。長岡京市は放射能の観測地点をきちんと発表しており、向日市も出来ると思う。それを広報に載せるべきである。

- 小学校では焼却炉は閉鎖されてごみの焼却は一切無い。給食の残りの残飯に関しては、ポットに入れ堆肥にしたものを学級園で使い、自分達で野菜を植えて、それをまた給食に出すということをやっている。夏はグリーンカーテンに取り組み、水やりをしていた。水の大切さも学んでいる。エコチャレンジとして、夏休みの宿題で、家族でどうエコに取り組むかをノートにまとめて意識することを学ぶこともやっていた。
- 空気については点でどんなに頑張っても、隣のまちから風が吹いたらどうしようもないが、もっと緑を増やし、空気を浄化することも合わせてやると良い。緑化については緑化率が 10%と決められているはずだが、緑化することを決めたのであればきちんとしておくべきである。排出されたものをどうするかだけではダメだと思う。発生源から生じない方法により取り組む必要がある。
- 景観条例については、ただちに起こさなければいけないのに 2013 年に先延ばしになったが、基本調査についてはすでに出来ていると思う。文化創造プラン、環境基本計画等が出来ているなかで、なぜ緑の保護は先延ばしされなければいけないのか。
- 水環境について、水質が改善されているという話があったが、アンケート調査を基に、数字としてはそれほど大きくはないが水辺環境について「悪化した」という意見も出ており、その点で実際と市民の感覚にずれがある。水環境を身近に感じられるようなものが必要である。市民がキレイな環境を実感出来て学べるような雰囲気づくりが必要だと感じた。
- 第 2 向陽小学校では屋上に竹を敷き詰めており、毎年 1/3 程度竹を入れ替えている。物集女地区の区長さんのご尽力があり、それをチップにして肥料にした。屋上に敷き詰めておくことで一定の水分が竹に残り、特にトマト畑に肥料として入れると隙間が出来て良いようだ。敷き詰めた下は涼しくなり、かつその竹が作物にも使われるため、環境委員会を中心として学習させると良いと思っている。本校では竹をめぐって地域の方にも協力してもらい、毎月第二土曜に、学校を拠点として古紙回収させてもらっている。若干それでお金を頂いており、そのお金でグリーンカーテンの苗を購入して循環していくというような取り組みをしている。
- 向陽小学校には卒業生が作ったビオトープがあった。ビオトープは、専門の手入れを知っている人がいなければ維持が難しく、手入れしなければ雑草が生え、水が循環しなくなる。そこで、ビオトープを作った卒業生が手入れもしてくれるようになった。良いと思ってビオトープを導入するが、維持管理をしていくのが難しいと思う。
- 全国レベルで環境の問題と教育が結びついていないのが一番の問題だと思っている。教科に環境科が無いことを皆さんに知ってもらいたい。環境科があれば、公害問題、緑化など環境を学べるベースが出来る。竹に関しても向日市らしくてとても素晴らしい取り組みである。このような策定委員会もあるので、市レベルで後押しして頂きたい。

- 向日市のごみの最終焼却場があと 20 年でなくなる。19 年頃からマイバッグ運動を行っており、行政には私達だけが活動するのではいけないと訴えている。グリーンカーテンの苗を提供すると言えば市民が集まってくるが、見ているとあまり実行されていない。第 4 小学校でのグリーンカーテンの取組みは三年目になり、エコ推進員が責任を持ってやっている。PTA も各種団体も一緒になってやろうと盛んに言っている。
- 東京の日野市では、当初は小さな団体でマイバッグ運動を行っていたが、今は全市を挙げて行っている。また各スーパーにペットボトル回収のボックスを置くことで、月に二度市で行っていた集団回収を月に一度に減らしたところ市の予算が減った。向日市でも立ち上がれば出来るはずである。小・中学校にも環境教育だけでなく、我々エコ推進員と一緒に取り組もうと盛んに言っているが手ごたえがない。どれだけ良い環境計画を立てても、計画倒れで終わってしまう。10 年、20 年の計画でなく、100 年先にもつながる計画を考えていかなければいけない。
- 学校での竹の取組みについても、他の小学校にどう展開していくか。昨日の新聞に生ごみについて掲載されていた。その活動は着々と進んでいるだろうが、システムとそれに伴う技術が整っていない。
- 国のテーマでも生物多様性が挙げられており、外来種でいっぱいのはりこ池は整備に課題はないと言えるのか。自然界の定義が揺らいでいると、園芸種の緑はよくて、地域の固有種の緑は守られているかという問題があり、そういったことも基本計画の中で謳わなければいけないと思う。
- 向日市が長岡京の中心だったということに基づいて、歴史的景観や街並みを作るという観点で考えるべきで、基本が失われているように感じる。西向日駅に案内板があるが、駅を降りた人には絶対に見えないような場所にある。意欲的に歴史的なものを生かす方法を考える必要がある。
- サクラ並木の保全については、お年寄りの方が手入れしてくれている。市は国から予算をもらっているはずだが、そういうところに使われていない。毎日だけでなく、シルバーさんに援助をして歴史的な街並みを保全する活動など、バックアップする施策が、この歴史的な街並みを保全していく活動の中で有効に生かされてほしいと思う。
- 田んぼも竹林も緑地とみなすのか。緑化とは、落葉樹や常用樹を指すと思う。京都市では緑被率をとっている。緑化政策にも優先順位をつけるべきではないか。
- 市役所に行くとパンフレットがたくさんあり、色々な散策ルート等も書いてあるが、アプローチをする際に、市外から来られる方が情報をチェック出来ない。例えば情報誌を京都駅にたくさん置いてみたり、京都府の祭があった際にはパンフレットを配布して P

Rしたり、そういったことがほとんどなされていない。向日市はPRの仕方が悪いと思う。嵐山の竹の径に比べても、向日市の竹の径も劣らない非常に良いものと思っている。しかしその道へ行くアプローチが悪く、パンフレットを持ちながらでも実際の道が分かりにくい。ボランティアガイドを設けたり、標識を整備する等すべきである。西向日のサクラ道もキレイだが、駅にはロータリーもなく市外から来られた人も車で行きにくい。動線を確認して、人の流れを作り滞留してもらおう。いくら資料があっても前に進みにくい。

- PTAに関わって6年になるが、エコ推進委員も知らなかったのも、そういった組織を知っていれば、今までに連携して出来たこともあったのではないかと思っている。情報を収集し提供するという、情報をいかに分かり易く提供していくかということ、これからは大切に考えていってほしいし、私達も考えていきたいと思っている。
- 緑化の問題について、各企業や民家でもっと緑化を進められるのではないかと思う。工務店、設計事務所に行政の方から指導してもらうことは出来ないか。例えばコンビニの駐車場であれば、両サイドには緑化スペースがあると思う。規制は難しいかもしれないが、行政から指導することは出来ないか。
- 緑地の問題について、竹やぶがどんどん広がってしまうため、歯止めが必要だと思っている。緑化、植物の生育する地域をある程度保護する形の将来計画がなければ、向日市に棲む生物の数がどんどん減ってしまう。緑地があるといっても、西の丘陵にあるだけで、東側にはほとんどない。それでいいのか考える必要がある。昔多くいた昆虫が現在では全然見られない。子供達が植物、動物の観察会をする際に、理解してもらえるような環境づくりが必要である。
- ごみの分析について、データが出てくるとどうなるか。それが見えるとどう減らしていくと良いか、方法が見えてくると思う。具体的な減らし方が入ると良いと思う。各地区でごみの堆肥化が進むと良い。そのためにはデータがあると説得力があると思う。
- 太陽光を設置出来ない古い住宅や集合住宅はどう考えるかという問題があったが、課題として書いてもらった上で、そういった方達はみんなで広い屋根に太陽光発電を設置してみようという取組みができると素敵だと思う。各人の家に設置するための課題を書き込むことを提案したいと思う。竹を敷き詰める取組みだけを他の小学校に伝えるのではなく、竹が何年でボロボロになり、地域の方の肥料になっていく過程と、生徒達が自分で計測していたことも伝えて頂けると良いと思う。
- 市民の方がどういった行動をとれば良いか、市がどう考えているか等を簡潔に示した、家の冷蔵庫等に貼っておけるような感覚のリーフレットのようなものがあると身近になってくると思う。それにつながるものとして、市民講座はどうだろうか。一般の市民の方に環境活動に参加してもらえるような敷居の低い講座や、そういった活動を引っ張

っていくような環境リーダーを育成する講座が出来ると、環境の活動が広がっていくのではないだろうか。P4「自然と親しみ、学ぶ機会を増やす」の進捗管理をしてみると、「参加する団体がない」という言葉があり、そこも補完出来る形になっていけば良いと思う。

- どう市民に訴えどう組織づくりしていくか、小学校と一般市民がセットになった活動が必要だと思う。先日京都市で3R推進委員会があり、出町商店街と北野商店街が来られて発表していた。北野商店街では、白菜を売っているお店、花を売っているお店が、手でまわして堆肥を作る道具を必ず店の前に置き、自分のところで出たくずを堆肥化し、堆肥化した肥料を市が集めて、安い値段で一般市民に分けていた。日野市がこれだけ栄えたのは、各自治会に環境委員を一人ずつ置いているからだと思う。市民の全体会議で出来た計画を各自治会の環境委員に伝えている。組織づくりを市民の中にどうもっていくかが一番大切だと思う。
- 啓発と教育は大事だと思うが、進めていく上でコストがかかる。堆肥化でも学校の竹の活動でも、いくら位コストがかかるのか。行政としては、コストの数字を出して、それに見合った予算を組み、組織で運営していき、バックアップする体制が必要である。アンケートは中学生に行ったが、実際に動けるのは高校生くらいからだと思う。京都市には大学生が17万人おり、協力し合っているいろいろな活動を行っている。

【 3）について 】

（事務局より資料の説明）

主な意見

- P5「エネルギーを効率的に利用する」について、幅広く含んでいるのでイメージしやすくするために3つ程度に分けることを提案する。一つ目は、再生可能エネルギーの普及。二つ目は、省エネルギー型の建築物や設備の普及。三つ目は、交通環境に関すること。それと、細かい話だが「地球温暖化防止に向けた行動をとる」については、「行動をとる」が施策というのは違和感を感じるため「行動を促す」などに表現を変えたらどうか。
- もし順番が大事だとすれば、「市民参画」を上を持っていくのが良いのではないかと。ネットワークが大事等の意見もあったため、市民に分かって頂く重要な点だと思う。
- ここに自然災害の問題についても入れたらどうか。3.11や台風等、向日市にも何が起ころうとも不思議ではない。長岡京は、水害で平安京に移ったという説がある位、水害が多いところである。自然災害の時にどこに逃げたら良いか分からず、危機管理も持ちながら環境を維持していくという意味で、少し入れておく方が良いと思う。
- 環境問題を考えると太陽光など自然エネルギーも出てくるため、本当に現在の原子力が良いのかどうかという問題もある。具体的に入れなくても、『防災計画に基本的な問題として掲げます』といった文言を環境計画にも一言入れておいたら良いと思う。
- あえて重点施策を設けた意味が分かりづらいところがあった。緑の問題についても非常に重要でグリーンカーテン等も盛んに行われているが、あえて都市環境を重点施策としなかったのはなぜか。また資源循環が重点施策になっていない。P3「現行の基本施策と目標～強化する」の文言を読んで先ほどのごみの回収の話にもあったが、単にモニタリングして結果だけ報告するというやり方で良いのか。
- 短期的、重点的と言うが、次世代に向けた環境計画でなければいけない。提言として載せられるのであれば、何年やっても提言のままである。計画を実施する計画というものが重要だと思う。10年20年先を見込んだ計画を立て、そのなかで修正していくべきである。
- 向日市の自治会の加入率は68%である。参加してくれる自治会もあれば、ほとんど機能しない自治会もある。防災を言うのであれば、国の1ha当たりの過密住宅地は、向日市は三地域指定されている。そのうち二地域が寺戸町である。もっと心配なのは消防車も通れないようなところが、寺戸町だけで20箇所位ある。災害が起きれば環境問題を言っても何もかもがストップする状況である。何らかの形で、防災も含めた広い意味での向日市の展望にして頂きたい。末端の組織を動かすことにはつながっていない。

- 私の住んでいた地区では、防災訓練の中心は小学校であった。小学校に関連する自治会全部が参加して訓練していた。そういったネットワークがないと上手くいかないと思う。
- 向日市には小学校が6つあり、寺戸町では5つの小学校に通っている。町内会に協力を求めても、同じ町内でも複数の小学校に通っている場合もある。寺戸町には今の話ではやりにくい。第一避難場所へ行くことすら意見が違い、ましてやまとまった訓練も割り振りも私達では出来ない。
- 環境の取組みをやってP T Aが一切立ち上がらない。学校のグリーンカーテンでは、P T Aでは立ち上がってもらえず私達がやり始めた。6校の小学校があつて、そのうちの1校のP T Aだけでも出来ない。市の協力的で実践的な育成教育が必要だと思う。
- 重点施策について、庁内の方での検討会では全てが重要なものであるということで、重点施策を位置付ける必要があるのかどうかという意見があつた。皆さんのご意見を聞いていても、わざわざ重点施策を決める必要はないのではないかと思います。
- 今月に二日間の向日市まつりがある。いろいろなN P OさんもP Rされると思う。環境問題について市民の認識が少ないということなので、何らかのアクションを起こす必要があるのではないかと。防災マップ等いろいろな資料もあるので、どこかで加わるような形を作ってもらえると良いと思う。

< 3. その他について >

次回の委員会は12/21（水）14時に市役所の大会議室で予定しております。
よろしく願いいたします。

< ・閉 会 >